

飯塚村内遺跡 2

—集合住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2023

高崎市教育委員会
大東建託株式会社
有限会社毛野考古学研究所

飯塚村内遺跡 2

—集合住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2023

高崎市教育委員会
大東建託株式会社
有限会社毛野考古学研究所

例　言

1. 本書は、集合住宅建設工事に伴う飯塚村内遺跡第2次調査の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市飯塚町字村内 572-1 に所在している。
3. 発掘調査および整理作業は、事業者・高崎市教育委員会・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、事業者に負担して頂いた。
5. 発掘調査は、高崎市教育委員会の監督のもと和久裕昭（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
6. 発掘調査・整理作業は、令和5年2月1日～同年7月31日の期間で実施した。
7. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「865」である。
8. 調査区全景を対象とする空撮は、和久が実施した。
9. 本書の執筆については、1を高崎市教育委員会、その他を和久が行い、編集の一部を渡辺博子（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
10. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
11. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下のとおりである（五十音順、敬称略）。

【発掘調査】

小野田勝実 新開昌代 中島佑輔 松井昭光 茂木幹夫

〔遺構測量〕 田村貴広（有限会社毛野考古学研究所）

【整理作業】

石川陽子 金澤明佳 柴田弘信 関小百里 武士久美子 田村健志 千木良有香子 真下弘美 山口昌子

12. 発掘調査の実施から資料整理・報告書作成にあたっては、次の機関および諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝申し上げる次第である（五十音順、敬称略）。

伊藤明宏 伊藤 洋 仁平京子 長崎博文 株式会社トーアイコーポレーション

凡　例

1. 採図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 遺構図および遺物実測図の縮尺については、図中にスケールを付して表示した。遺物観察表の計測値で用いた単位は cm、g である。
3. 土層・土器の色調の観察・記載にあたっては、『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修）を用いた。
4. 土層説明における含有物の量は、多量（50～30%）・中量（25～15%）・少量（10～5%）・微量（1～3%）を基本とし、より高率・多量は「主体」、より低率・少量は「ごく微量」とそれぞれ表記した。
5. 遺物観察表中の法量欄について、推定復元による場合には（）、残存値には〔 〕をつけた。
6. 遺構の略称は、竪穴住居跡：SI、溝：SD、土坑：SK、ピット：Pとした。
7. 本書掲載の第1図は高崎市発行 1/2,500 「高崎市都市計画基本図」、第2図は国土地理院発行 1/200,000 地勢図「長野」「宇都宮」、第3図は国土地理院発行 1/25,000 地形図「前橋」「高崎」「下室田」「富岡」を一部改変のうえ引用した。また、本書掲載の地図は、いずれも真上が北である。

目 次

| | |
|----------------------|----------------------|
| 例 言 | IV 基本層序 5 |
| 凡 例 | V 遺構と遺物 6 |
| 目 次 | 第1節 概要 6 |
| I 調査に至る経緯 1 | 第2節 壑穴住居跡 7 |
| II 地理的・歴史的環境 2 | 第3節 溝 10 |
| 第1節 地理的環境 2 | 第4節 土坑・ピット 14 |
| 第2節 歴史的環境 2 | 第5節 遺構外出土遺物 17 |
| III 調査の方法と経過 4 | VI まとめ 18 |
| 第1節 調査の方法 4 | 写真図版 |
| 第2節 調査の経過概要 4 | 報告書抄録 |

図表目次

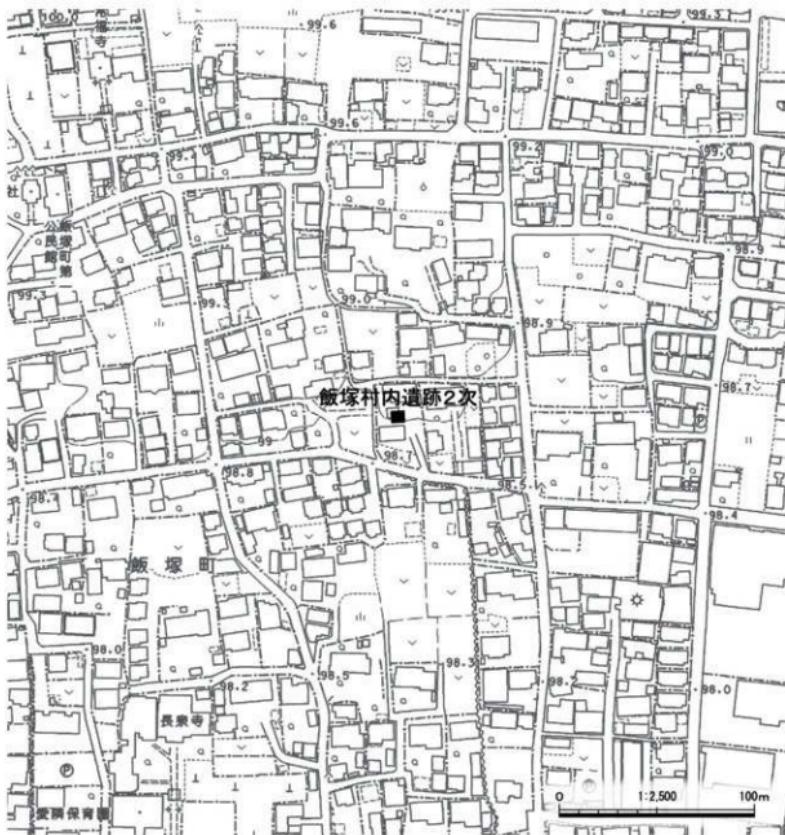
| | | |
|-------------------------|-------------------------|-----------------------------|
| 第1図 調査区位置図 1 | 第9図 SI-03出土遺物 10 | 第17図 ピット(3) 17 |
| 第2図 高崎市および道路の位置 2 | 第10図 SD-01 11 | 第18図 遺構外出土遺物(掻乱出土) 18 |
| 第3図 周辺の遺跡 3 | 第11図 SD-01出土遺物 12 | 第1表 SI-01出土遺物観察表 8 |
| 第4図 基本層序 5 | 第12図 SD-02 13 | 第2表 SI-03出土遺物観察表 10 |
| 第5図 調査区全体図 6 | 第13図 SD-02出土遺物 14 | 第3表 SD-01出土遺物観察表 12 |
| 第6図 SI-01・02 7 | 第14図 SK-01 15 | 第4表 SD-02出土遺物観察表 14 |
| 第7図 SI-01出土遺物 8 | 第15図 ピット(1) 15 | 第5表 土坑・ピット一覧表 17 |
| 第8図 SI-03 9 | 第16図 ピット(2) 16 | 第6表 遺構外出土遺物観察表 18 |

写真図版目次

| | | |
|-------------------------|---------------------|------------------------|
| PL.1 遺跡の位置と周辺の地形 | SD-01 遺物出土状況(2) | P-15 ~ 17 |
| 調査区周辺の新旧航空写真 | SD-02 | SK-01 |
| PL.2 調査区全景(調査前半) | SD-02 土層断面 | 基本層序記録用テストピット |
| 調査区全景(調査後半) | SD-02 遺物出土状況(1) | 土層断面 |
| PL.3 SI-01・02 | SD-02 遺物出土状況(2) | 基準杭打設状況 |
| SI-01 遺物出土状況 | PL.5 P-01 | 表土掘削状況 |
| SI-01・02 土層断面 | P-01 土層断面 | 調査状況 |
| SI-01 F01 | P-02 | PL.7 SI-01 出土遺物 |
| SI-03 | P-03 | SI-03 出土遺物 |
| SI-03 土層断面 | P-04 | SD-01 出土遺物 |
| SI-03 遺物出土状況(1) | P-05 | PL.8 SD-02 出土遺物 |
| SI-03 遺物出土状況(2) | P-06・07 | 調査区一括遺物 |
| PL.4 SD-01 | P-08・09 | 掻乱出土遺物 |
| SD-01 土層断面 | PL.6 P-10・11 | |
| SD-01 遺物出土状況(1) | P-12 ~ 14 | |

I 調査に至る経緯

令和4年7月中旬、事業者から飯塚町の集合住宅建設工事に対する埋蔵文化財の照会が、市教育委員会文化財保護課（以下、「市教委」と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、工事に際し協議が必要の旨、回答した。令和4年8月22日に文化財保護法（以下「法」とする）第93条第1項の規定による届出と、埋蔵文化財試掘調査依頼書が提出され、令和4年11月10日に試掘確認調査を実施した。調査では、堅穴建物等を確認し、その保存協議を行ったが現状保存は困難と判断され、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。令和4年12月26日、事業者より民間調査組織選定の連絡があり、令和5年1月6日、事業者と有限会社毛野考古学研究所で発掘調査の契約を締結した。遺跡名は「飯塚村内遺跡第2次」とし、調査の指導監督は市教委が実施することとなった。



第1図 調査区位置図

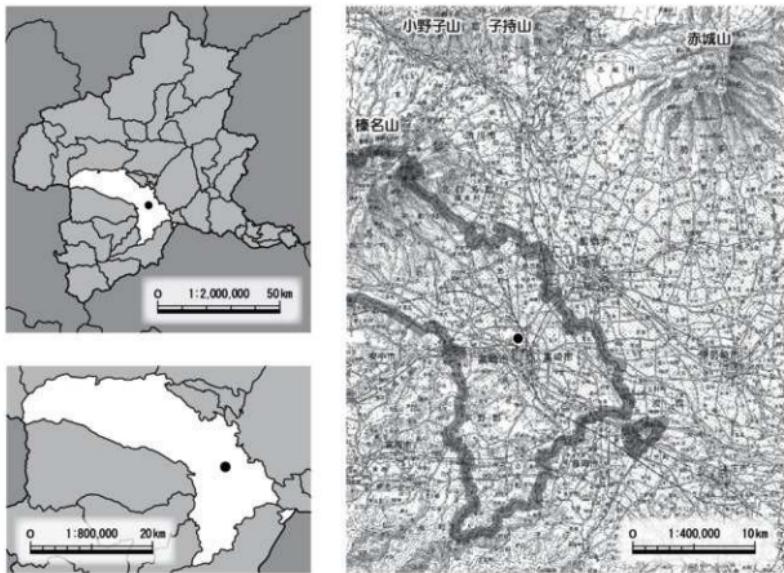
II 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

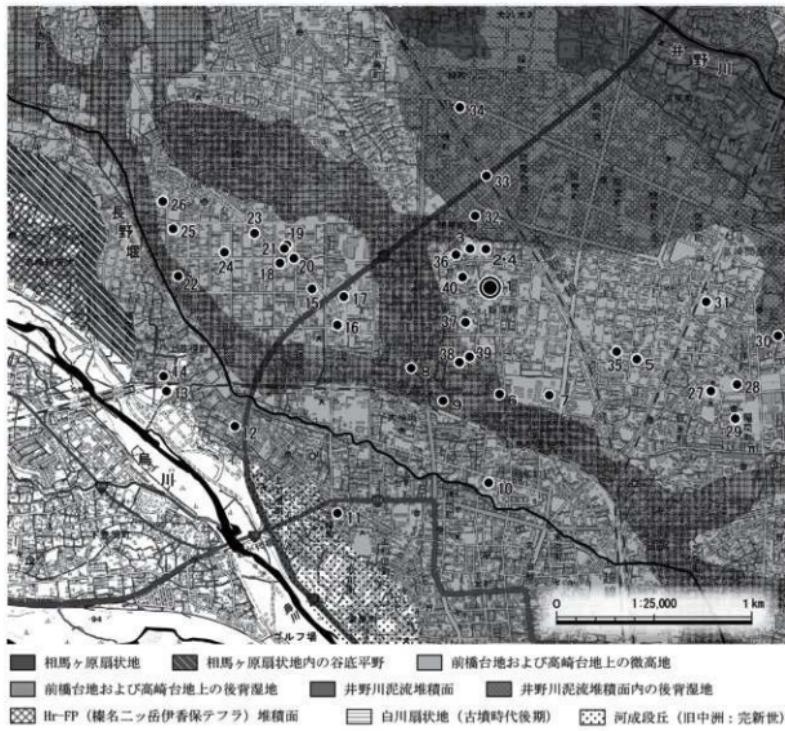
飯塚村内遺跡は群馬県南西部、高崎市飯塚町に所在し、JR 北高崎駅の北 670 m付近に位置する。本遺跡周辺は、高崎台地と呼ばれる台地上に相当する。高崎台地は、約 2.1 万年前の浅間山噴火に伴う前橋泥流堆積物を基盤とする前橋台地の西方、烏川と井戸川に挟まれた地域を指し、前橋泥流堆積物の上位には約 1.1 万年前に堆積した高崎泥流が堆積している。台地上は小河川が網目状に流れ、微高地と低地（後背湿地）が入り組んだ様相を呈する。本遺跡は、北西から南東へと延びる後背湿地縁辺の微高地に位置し、標高は約 98.5 m を測る。

第2節 歴史的環境

〔弥生時代以前〕 本遺跡周辺では旧石器時代から縄文時代の遺跡は顕著でなく、下小島遺跡（33）で縄文中期の遺物が出土した程度である。弥生時代には遺構・遺物が確認されるようになり、稲荷町 I 遺跡（28）で中期の住居を、間屋町西遺跡（32）では竪見町式土器を作った遺構を検出している。本遺跡北側の微高地にある飯塚貝沢埋添遺跡（2～4）や、本遺跡西側の微高地にある上並榎屋敷前遺跡（12）・上並榎南遺跡（13）では弥生中期後半～後期の堅穴住居・土坑・溝・包含層を検出している。As-C 下水田跡は並榎北遺跡（15・16）・上並榎下松遺跡（18・19）・上並榎御料所遺跡（23）で検出され、さらに、並榎北遺跡では As-C 下水田跡より古い水田跡の存在が指摘されている。



第2図 高崎市および遺跡の位置



1. 飯塚村内遺跡 2. 飯塚・貝沢塗添遺跡 3. 飯塚・貝沢塗添遺跡 2 4. 飯塚貝沢塗添遺跡 3 5. 飯塚大苗代遺跡
 6. 飯塚西金井遺跡 7. 飯塚西金井II遺跡 8. 飯塚塙田II遺跡 9. 飯塚大道東遺跡 10. 明和町I遺跡 11. 並榎台原遺跡
 12. 上並榎屋敷前遺跡 13. 上並榎南遺跡 14. 並榎城址 15. 並榎北遺跡 16. 並榎北II・III・IV・V遺跡 17. 並榎町I遺跡
 18. 上並榎下松遺跡 19. 上並榎下松II遺跡 20. 上並榎下松遺跡 3 21. 上並榎下松遺跡 4 22. 上並榎稻荷山古墳
 23. 上並榎御料所遺跡 24. 上並榎御料所II遺跡 25. 上並榎八反田遺跡 26. 筑縄遺跡群 27. 稲玉I・II遺跡 28. 稲荷町I遺跡
 29. 稲荷町II遺跡 30. 見沢・天神遺跡 31. 見沢・島遺跡 32. 間屋町西遺跡 33. 下小鳥遺跡 34. 大八木水田遺跡
 35. 飯塚十二前遺跡 36. 上飯塚城址 37. 長泉寺 38. 鼠屋敷 39. 飯塚原屋敷遺跡 40. 飯塚村内遺跡(前回調査)

第3図 周辺の遺跡

【古墳時代】下小鳥遺跡（33）で前期の住居を検出したほか、烏川左岸の微高地にある並榎台原遺跡（11）、上並榎屋敷前遺跡（12）、本遺跡東側の微高地にある稻荷町I遺跡（28）で後期の住居が確認されている。Hr-FA やこれに伴う泥流下の水田跡は、本遺跡に近接する飯塚雁田II遺跡（8）や飯塚大道東遺跡（9）のほか、並榎北遺跡（15・16）、並榎町I遺跡（17）、上並榎下松遺跡（18～21）、上並榎御料所遺跡（23・24）で「極小区画水田」を検出している。本遺跡北方にある間屋町西遺跡（32）では、Hr-FA 下水田跡と Hr-FA 降下以後間もない時期の大型水路が検出されている。古墳は、5世紀後半の大型前方後円墳である上並榎稻荷山古墳（22）が単独で築造されるほか、筑縄遺跡群（26）の円墳などがある。

【奈良・平安時代】集落調査事例としては、上並榎南遺跡（13）、筑縄遺跡群（26）、漆紙文書を出土した

下小鳥遺跡（33）、飯塚十二前遺跡（35）などがあり、さらに貝沢・島遺跡（31）では古代瓦が、今回調査地点に近接する飯塚村内遺跡（40）ではコップ形須恵器の出土が特筆される。As-B 下水田跡は、後背湿地に位置する飯塚西金井遺跡（6）・飯塚雁田II遺跡（8）・飯塚大道東遺跡（9）をはじめ、本遺跡東方の微高地上の飯塚大苗代遺跡（5）・飯塚西金井II遺跡（7）・飯玉I・II遺跡（27）・貝沢・天神遺跡（30）、井野川低地帯の間屋町西遺跡（32）・下小鳥遺跡（33）・大八木水田遺跡（34）など、広範囲に調査されている。大八木水田遺跡（34）や、本遺跡西方の微高地上の並板北遺跡（15・16）・並板町I遺跡（17）・上並板下松遺跡（18～21）・上並板御料所遺跡（23・24）では、条里地割に沿う大畦畔などが検出され、条里制水田の実態が明らかになってきている。

【中世】 和田氏の居城である和田城が 15 世紀中頃から 16 世紀にかけて存続し、並板城（14）・上飯塚城（35）・下之城・大類城といった支城が周囲に築かれた。本遺跡に近い上飯塚城（36）は、長野氏と対峙する和田氏の北の備えとして、永禄年間ごろに築城されたとされる。飯塚・貝沢堀添遺跡（2～4）では、上飯塚城の外堀・内堀と想定される溝や、据立柱建物・井戸などが確認されている。飯塚扇屋敷遺跡（39）では、16 世紀代の館跡である鼠屋敷（38）との関連を強く想起させる溝状遺構が検出された。長泉寺（37）と鼠屋敷は、ともに上飯塚城と同時期の複郭式方形館と考えられている。

III 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

表土除去は、0.20 m² バックホーを用いて行った。表土除去後、人力による遺構検出および遺構掘削を行った。遺構掘削は、適宜ベルト設定および半裁を行い、土層堆積状況を記録した。

遺構測量については、トータルステーションおよび電子平板を用いて平面図を作成し、断面図は造り方測量で行った。座標は世界測地系を使用した。遺構写真撮影は調査の進捗状況に応じて行い、35mmモノクロフィルム・デジタルカメラ（1,200 万画素相当）を使用した。

遺物接合は、溶剤系接着剤（セメダイン C）を用い、エポキシ系樹脂で部分的に補強した。遺物の写真撮影は、センサーサイズ APS-C のもの（Nikon D7000）を使用した。遺構・遺物トレース、写真加工、版組はそれぞれ Adobe IllustratorCS2、Adobe PhotoshopCS6、Adobe InDesignCS2 を使用した。

第2節 調査の経過概要

現地での発掘調査は令和 5（2023）年 2 月 1 日～同年 2 月 16 日まで行った。

2月1日 重機による表土掘削、土山の整形を含め午前中にて終了、午後より人力作業。器材搬入、土のうづくり、遺構確認作業。溝状遺構 2 条の南北端、および調査区南東部に設定したサブトレーンチ内の掘削。

2月2日 調査区西部に位置する SD-01 の覆土掘削を進め、おおよそ掘り上げる。SD-01 北部底面付近にて、滑石製紡錘車が出土、当該状況の撮影。SD-02 覆土断面（調査区南部）の撮影。

2月3日 調査区中央付近に位置する SD-02 の覆土掘削。検出範囲北部において、滑石製模造品が出土、当該状況の撮影。SD-01 覆土断面（調査区南部）の撮影。基準杭打設、SD-01・02 出土滑石製品のドット上げ、調査区範囲の平面測量。調査区中央部付近の搅乱土の除去。

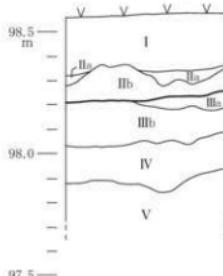
2月6日 SD-02 覆土掘削の継続、おおむね掘り上がる。SD-02 遺物出土状況、同遺構の覆土断面（調査区北壁）の撮影。土坑・ピット類の覆土掘削、土層断面の撮影。

- 2月7日** SD-02 出土遺物のドット上げ。土坑・ピットの完掘、当該状況の撮影。SI-01 の覆土掘削。
- 2月8日** 土坑・ピットの完掘、当該状況の撮影。清掃ののち、調査区全景の空撮。SD-01・02 完掘全景の撮影。SI-01 の覆土掘削、遺物出土状況の撮影。調査区北側について、幅 2 m の範囲を As-C 黒色混土層（いわゆる C 黒）上面まで掘り下げる作業に着手。
- 2月9日** SI-01、出土遺物のドット上げ、完掘全景の撮影。調査区北西側について、幅 2 m の範囲を C 黒上面まで掘り下げる。調査区東側にて確認面を掘り下げ始めた直後、遺物が複数出土し、住居跡のプランが見えたため掘り下げを中止、SI-03 としての精査に切り替える。
- 2月10・13日** 降雪・降雨のため、週をまたいで 2 日間にわたり作業休止。
- 2月14日** シート上にたまつた雨水の除去。SI-03 遺物出土状況撮影・遺物ドット上げ、土層断面の撮影。
- 2月15日** SI-01 に付帯する柱穴 1 基の掘削記録、SI-03 出土遺物の追加記録、調査区全景の追加撮影。その後、基本層序用のテストピット掘削・土層断面記録。ピットの追加検出と記録。高崎市教委による完了検査ののち、人力作業の全工程を終了。
- 2月16日** 調査区埋め戻し、仮設トイレ汲み取り、器材撤収。大東建託株式会社高崎支店と高崎市教委に、現地作業終了の旨を報告。

IV 基本層序

調査対象地はごく最近まで宅地であった関係で、造成土に相当する I・II 層が、本来存在していたはずの As-A および As-B 混土層を大きく削り込んでいる状況が看取される。自然の作用にて堆積している層の最上位は、Hr-FA 泥流堆積物層の III 層であり、同層の上面を造構確認面とした。今回検出された遺構のすべてが、この III 層を掘り込んでつくられており、住居跡の覆土は III 層に由来する粘質土を多く含んでいる。

IV 層は As-C を含有する暗褐色土（いわゆる C 黒）で、V の灰褐色土層は洪水層の一層と考えられる。また、III 層以下いずれの層準においても、酸化鉄が凝集した橙色



第4図 基本層序

| | |
|-----------|--|
| I 黄褐色土 | 砂利（径 5 ~ 20 mm）を上位で多量に、下位で少量含む。しまり強、粘性弱、造成土。 |
| IIa 灰褐色土 | 炭化物（径 5 ~ 70 mm）と焼土粒（径 5 ~ 20 mm）を中量、As-A の粒子（径 2 ~ 6 mm）を少量、As-B の粒子（径 2 ~ 4 mm）を微量含む。しまりやや強、粘性普通。 |
| IIb 暗褐色土 | As-B の粒子（径 2 ~ 4 mm）を少量、As-A の粒子（径 2 ~ 6 mm）、炭化物粒（径 2 ~ 10 mm）、および焼土粒（径 5 ~ 20 mm）をそれぞれ微量含む。しまりやや強、粘性普通。 |
| IIIa 暗褐色土 | シルト質。搅拌された形跡が顕著。酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を中量。軽石粒（径 2 ~ 6 mm）を微量含む。しまり普通、粘性やや強。 |
| IV 暗褐色土 | いわゆる C 黒。白味の強い軽石粒（径 2 ~ 5 mm）を中量含む。しまり、粘性ともやや強。 |
| V 灰褐色土 | 軽石粒（径 2 ~ 5 mm）を少量含む。しまりやや強、粘性強。 |

した橙色の植物痕を中量、角閃石を伴う軽石粒（径 5 ~ 20 mm）を少量含む。しまり普通、粘性やや強。ごく散漫に分布。

IIIb 暗褐色土

シルト質。搅拌された形跡が顕著。酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を中量。軽石粒（径 2 ~ 6 mm）を微量含む。しまり普通、粘性やや強。

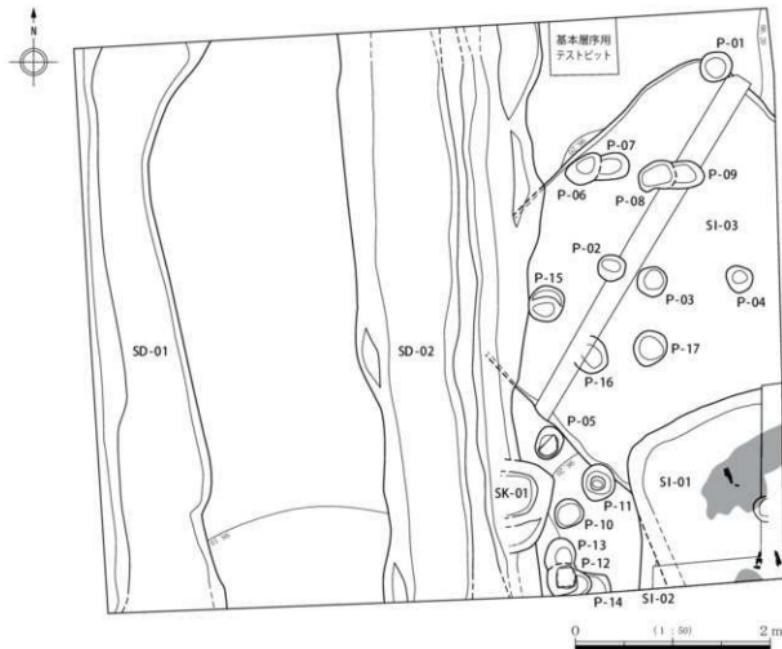
IV 暗褐色土

いわゆる C 黒。白味の強い軽石粒（径 2 ~ 5 mm）を中量含む。しまり、粘性ともやや強。

V 灰褐色土

軽石粒（径 2 ~ 5 mm）を少量含む。しまりやや強、粘性強。

の植物痕が多く認められる。本遺跡の基本層序は、泥流などによる土砂の被覆を繰り返しながら居住に適した地味へと変化してゆく消息を物語っている。



第5図 調査区全体図

V 遺構と遺物

第1節 概要

今回の調査で、竪穴住居跡3軒、溝2条、土坑1基、ピット17基が検出された。竪穴住居跡のみ6世紀初頭～前半に属し、その他の遺構のほとんどは中近世において構築・利用されたものと考えられる。

住居跡では、主に土師器が覆土下層ないし床面付近から出土した。溝の覆土より土師器や滑石製品、陶器類が見つかったほか、遺構外出土遺物として軟質陶器の内耳焙烙などが認められる。軟質陶器の製作年代が示す時期幅は15世紀後半～16世紀前半と推測される。

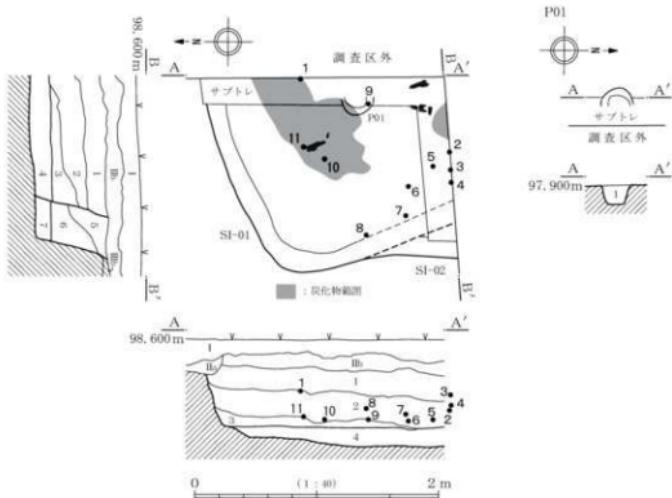
調査の前半段階、古墳時代中～後期のほか、遺構外にして僅少ながら弥生時代後期とみられる土器破片が出土したことから、当初の遺構確認面であった基本層序のⅢ層上面より下の層準（Ⅳ層上面）まで時間の許す範囲で掘り下げて遺構・遺物の有無を確認する旨企図していた。結局、それが実施できたのは調査区北西部に限られ、当該範囲のⅣ層上面において顕著な遺構・遺物を認めることは叶わなかった。

なお、本章の文中では、個々のピットを事実記載の対象とせず、「ピット一覧表」（第5表）に所見をまとめた。

第2節 竪穴住居跡

SI-01 (第6・7図、第1表、PL. 3・7)

位置：調査区南東部。 平面形態：長方形と推測される。 重複：SI-02 と重複し、これより新しい。 規模：不明。検出範囲における北壁の長さは約2mと推測される。 残存深度：0.45mを測る。 主軸方位：N-65°E。 柱穴：P 01とした1基が、検出範囲中央付近で確認されている。 壁周溝：確認されていない。 床面の状態：おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。 カマド：確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測



SI-01 土層説明

- 1 開土色土 酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を中量、白色の輕石粒（径5～10mm）を少量含む。しまり、粘性とも普通。
- 2 橙色土 酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を中量、白色の輕石粒（径5～10mm）を微量含む。しまり、粘性とも普通。
- 3 黄褐色土 炭化物と酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を中量、白色の輕石粒（径5～10mm）を微量含む。しまり、粘性ともやや強。
- 4 暗褐色土 炭化物と酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を中量、白色の輕石粒（径5～10mm）を微量含む。しまり、粘性とも強。床上。

SI-02 土層説明

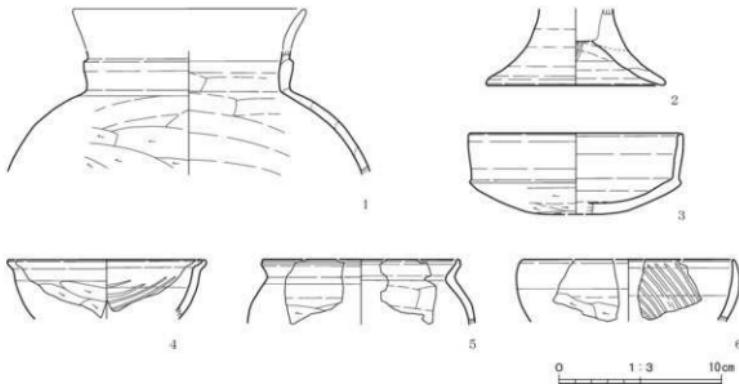
- 5 橙色土 酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を中量、白色の輕石粒（径5～10mm）を微量含む。しまり、粘性とも普通。
- 6 橙色土 酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を中量、白色の輕石粒（径5～10mm）と炭化物粒（径5～20mm）を微量含む。しまり、粘性とも普通。
- 7 増褐色土 炭化物が凝聚した橙色の植物痕を中量、白色の輕石粒（径5～10mm）、炭化物粒（径2～10mm）、燒土粒（径2～6mm）を微量含む。しまり、粘性とも強。SI-02 床上。

SI-01 P01 土層説明

- 1 増褐色土 炭化物が凝聚した橙色の植物痕と炭化物粒（径2～8mm）を中量、白色の輕石粒（径2～5mm）を微量含む。しまり普通。粘性やや強。

第6図 SI-01・02

される。 遺構埋没状態：シルトを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。 掘り方：白色の軽石粒、炭化物粒、焼土粒を微量含む暗褐色土により床が構築されている。掘り方の底面は細かな凹凸をもつ。 遺物出土状態：床面直上または覆土下層に集中する。平面的には、散在する観がある。 時期：古墳時代後期前半（6世紀初頭～前半）と推定される。 遺物：土師器壺・高杯・甕・壺が出土している。



第7図 SI-01 出土遺物

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | ①側面(内・外)②土師土復存 ③陶化度 ④赤褐色・白色・石英・輝石 ⑤部 | 成・整形技法の特徴 | 備考 |
|----|------------------------|-------------------------|---|--|-------------|
| 1 | 土師器 甕 | 口径 底径 器高 [7.6] | — ①陶化度 ②明赤褐色／明赤褐色 ③赤褐色粒、白色粒、石英、輝 石 ④頸部1/7 | 粘土練積み上げ成形。 外面：頸部ヨコナデ、頸部ヘラナダ→ケズリ。 内面：頸部ヘラナダ→上半ヨコナデ、頸部ヘラナダ。 | 頸部外面黒斑あり。 |
| 2 | 土師器 高杯 | 口径 底径 器高 [4.7] | — ①陶化度 ②褐色／褐色 ③赤褐色粒、白色粒、石英、輝石 ④脚 部1/6 | 粘土練積み上げ成形。 外面：脚部ヨコナデ。 内面：脚部ナダ→下半ヨコナデ。 | 脚部側にはぞ穴をもつ。 |
| 3 | 土師器 標倣壺 | 口径 底径 器高 [5.0] | — ①陶化度 ②明赤褐色／明赤褐色 ③赤褐色粒、白色粒、輝石 ④ 1/12 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ→ナダ。 内面：口縁部ヨコナデ。 | |
| 4 | 土師器 内鉢口 縁付 高杯 | 口径 底径 器高 [3.6] | — ①陶化度 ②褐色／褐色 ③赤褐色粒、石英 ④口縁部 1/4弱 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部ヨコナデ、体部ナダ→ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナダ→斜向ミガキ。 | |
| 5 | 土師器 甕 | 口径 底径 器高 [4.0] | — ①陶化度 ②明赤褐色／明赤 ③赤褐色粒、白色粒、石英 ④口縫部小破片 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部ヨコナデ、体部ナダ→下平ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナダ。 | |
| 6 | 土師器 内鉢口 縁付 高杯 | 口径 底径 器高 [3.8] | — ①陶化度 ②明赤褐色／赤褐色 ③赤褐色粒、白色粒、輝石 ④口 縫部小破片 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部ヨコナデ、体部ナダ→ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、体部ナダ→斜向ミガキ(暗文)。 | |

第1表 SI-01 出土遺物観察表

SI-02 (第6図、PL. 3)

位置：調査区南東部。 平面形態：長方形と推測される。 重複：SI-01と重複し、これに切られている。 規模：不明。 残存深度：0.50 m。 主軸方位：不明。 杖穴：検出されなかった。 壁周溝：確認されていない。

床面の状態：おおむね平坦である。明瞭な硬化面は認められない。 カマド：確認されなかった。 遺構埋没

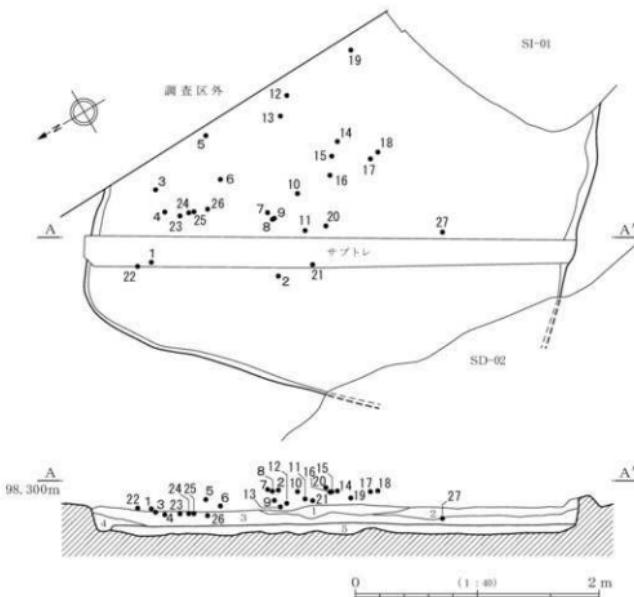
状態：シルトを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。 掘り方：白色の軽石粒、炭化物

粒、焼土粒を微量含む暗褐色土により床が構築されている。 遺物出土状態：遺物は出土しなかった。 時期：

SI-01・03との新旧関係の類推から、古墳時代後期前半（6世紀初頭～前半）と考えられる。 遺物：なし。

SI-03 (第8・9図、第2表、PL. 3・7)

位置: 調査区東部。 平面形態: 長方形と推測される。 重複: SI-01 と重複し、これに切られている。 規模: 不明。 北壁の長さは 3.85 m と推測される。 残存深度: 0.25 m を測る。 主軸方位: N \sim 46°E。 柱穴: 確認されていない。 壁周溝: 確認されていない。 床面の状態: おおむね平坦である。 明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。 カマド: 確認されなかつた。 調査区外に潜在しているものと推測される。 遺構埋没状態: シルトを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。 堀り方: 基本層序のⅢ層に由来する粘質土と白色の軽石粒を含むにぶい黄褐色土により床が構築されている。 遺物出土状態: 床面上または覆土下層に集中する。 平面的には、散在する觀がある。 時期: 古墳時代後期前半 (6世紀初頭～前半) と推定される。 遺物: 土師器壺・高壺・甕が出土している。

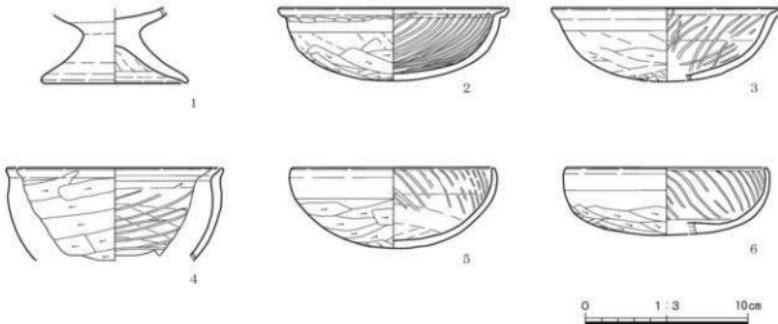


SI-03 土層説明

- 1 にぶい黄褐色土 酸化鉄が凝聚した橙色の植物底と炭化物を中量、白色の軽石粒 (径 2～5 mm) を微量含む。しまり普通、粘性やや強。
- 2 灰黄褐色土 酸化鉄が凝聚した橙色の植物底を中量、白色の軽石粒 (径 2～5 mm) を微量含む。しまり普通、粘性やや強。
- 3 にぶい黄褐色土 酸化鉄が凝聚した橙色の植物底を中量、白色の軽石粒 (径 2～5 mm) を微量含む。しまり普通、粘性やや強。

- 4 にぶい黄褐色土 基本層序のⅢ層に由来する粘質土を多量、酸化鉄が凝聚した橙色の植物底を中量、白色の軽石粒 (径 2～5 mm) を微量含む。しまり、粘性ともやや強。
- 5 にぶい黄褐色土 酸化鉄が凝聚した橙色の植物底と基本層序のⅢ層に由来する粘質土を中量、白色の軽石粒 (径 2～5 mm) を微量含む。しまり、粘性ともや強。床土。

第8図 SI-03



第9図 SI-03 出土遺物

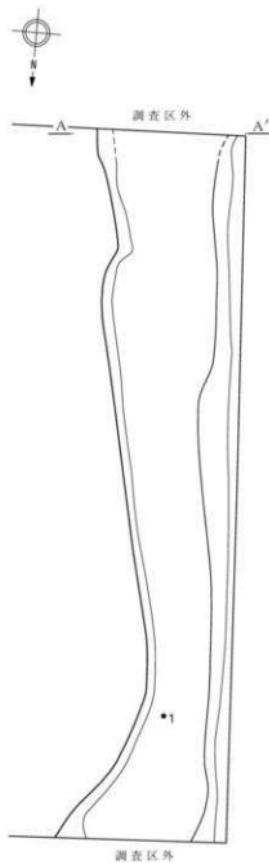
| 番号 | 器種 | 法量(cm) | ①焼成色調(内/外)等歴土の現存 | 成・整形技法の特徴 | 備考 |
|----|------------------|-------------------------|------------------|---|---|
| 1 | 土師器 高坏 | 口径 底径 器高 [4.7] | — 8.8 — | ①焼成 塗 ②明赤褐色／明赤褐色 ③赤褐色粒、白色粒、石英、輝 石 ④脚部 1/2 | 粘土練積み上げ成形。 外面：坏部ナグ。脚部ヨコナグ。 内面：坏部ナグ。脚部ナグ→下半ヨコナグ。 |
| 2 | 土師器 内斜口 高坏 | 口径 底径 器高 [4.5] | 14.0 — 4.5 | ①焼成 塗 ②橙色／橙色 ③褐色 粒、白色粒、石英、輝石 ④1/4 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部ヨコナグ。体部ヘラナグ→下半ケズリ。 内面：口縁部ヨコナグ。体部ナグ→斜行(ギキ(暗文))。 |
| 3 | 土師器 内斜口 高坏 | 口径 底径 器高 [4.5] | — — 4.5 | ①焼成 塗 ②橙色／橙色 ③赤褐 色粒、白色粒。石英、輝石 ④口 縁部 1/4弱 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部ヨコナグ。体部ヘラナグ→下半ケズリ→輪なミガキ。 内面：口縁部ヨコナグ。体部ナグ→斜行(ギキ(暗文))。 |
| 4 | 土師器 内斜口 高坏 | 口径 底径 器高 [5.7] | — — — | ①焼成 塗 ②明赤褐色／橙色 ③赤褐色粒、白色粒、石英、輝 石 ④口縁部 1/4弱 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部ヨコナグ。体部ナグ→ケズリ。 内面：口縁部ヨコナグ。体部ヘラナグ→斜行(ギキ(暗文))。 |
| 5 | 土師器 内溝口 高坏 | 口径 底径 器高 [5.0] | — — 5.0 | ①焼成 塗 ②明赤褐色／明赤褐色 ③赤褐色粒、白色粒、石英、輝 石 ④1/2 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部ヨコナグ。体部ナグ→ケズリ。 内面：口縁部ヨコナグ。体部ヘラナグ→斜行(ギキ(暗文))。 |
| 6 | 土師器 内溝口 高坏 | 口径 底径 器高 [4.1] | — — — | ①焼成 塗 ②明赤褐色／明赤褐色 ③赤褐色粒、白色粒、石英、輝 石 ④口縁部 1/3 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部ヨコナグ。体部ナグ→下半ケズリ。 内面：口縁部ヨコナグ。体部ヘラナグ→斜行(ギキ(暗文))。 |

第2表 SI-03 出土遺物観察表

第3節 溝

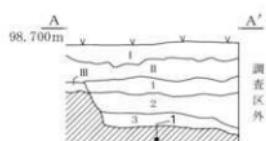
SD-01 (第10・11図、第3表、PL.4・7)

位置：調査区西端。遺構西部は調査区外となる。重複：検出範囲においてなし。形態：南北方向に走行し、底面は西側が低い。断面形は逆台形を呈する。計測値：主軸方位N-4°W、検出長 5.82 m、検出幅 0.70 ~ 1.42 m、確認面からの深さ 0.26 ~ 0.36 m。埋没状態：主として褐色土が堆積している。遺物：弥生土器壺・土師器高坏・中世在地土器鉢・石製紡錘車が出土している。時期：埋没状態と出土遺物より、中世と推定される。



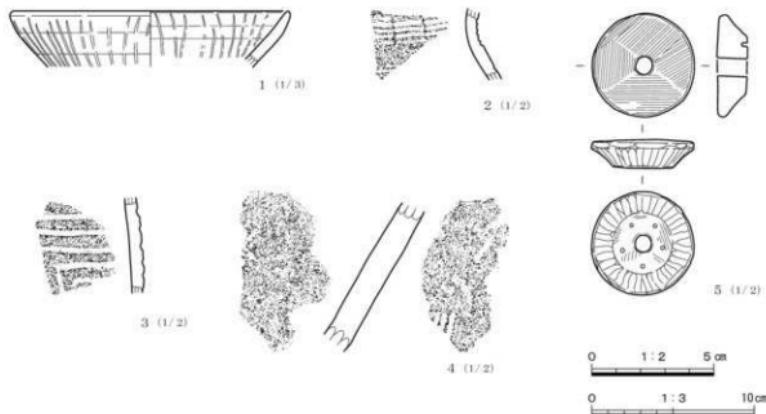
SD-01 土壠説明

- 1 棕色土 基本層序のⅢ b 層に由来する粘質土と酸化鉄が凝聚した棕色の植物灰を中層、白色の軽石粒（径 5 ~ 10mm）を少量、炭化物粒（径 4 ~ 8mm）を微量含む。しまり普通、粘性やや強。
- 2 棕色土 As-B の粒子（径 1 ~ 4 mm）を中量、酸化鉄が凝聚した棕色の植物灰を少量、白色の軽石粒（径 5 ~ 10mm）を微量含む。しまり、粘性とも普通。
- 3 棕色土 As-B の粒子（径 1 ~ 4 mm）を少量、酸化鉄が凝聚した棕色の植物灰を微量含む。しまり、粘性ともやや強。



0 (1 : 40) 2 m

第 10 図 SD-01



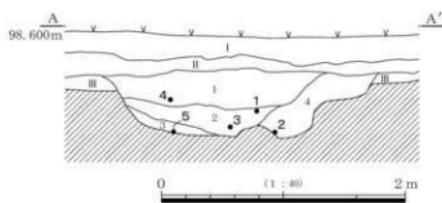
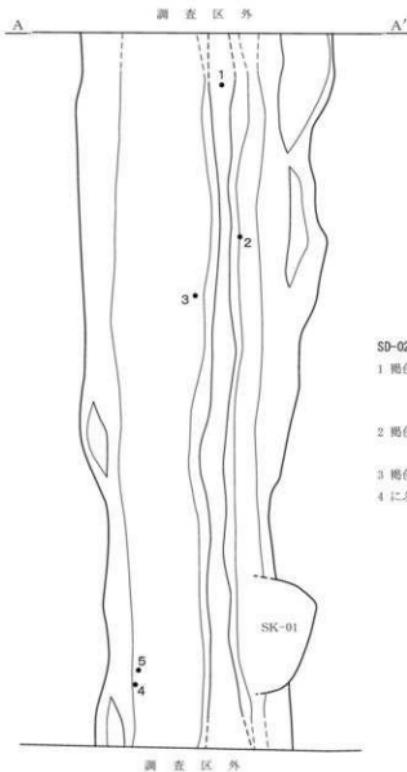
第11図 SD-01出土遺物

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | ①焼成②色調(内/外)③断面状況 | 成・整形技法の特徴 | 備考 | |
|----|------------------|------------------------|----------------------------|---|--|--------------|
| 1 | 土師器 高环 甕 | 口径 底径 器高 | (17.0) — [3.4] | ①焼成 ②橙色／明赤褐色 ③赤褐色粒、白色粒、石英、輝石 ④口縁部1/4弱 | 粘土練積み上げ成形。 外面：口縁部コナダー放射状セギキ(暗緑)。 内面：口縁部ナダードー上半ヨコナダー放射状セギキ(暗緑)。 | 口縁部外面に黒斑あり。 |
| 2 | 争生土器 甕 | 口径 底径 器高 | — — — | ①焼成 ②橙色／淡橙色 ③赤褐色粒、白色粒、輝石 ④縫合部小破片 | 粘土練積み上げ成形。 外面：頸部ナダードー等間隔止標接縫状文(左側面、右回り)。 内面：頸部ナダードー。 | 中期末～後期前半 |
| 3 | 争生土器 鉢 | 口径 底径 器高 | — — — | ①焼成 ②灰白色／淡黄褐色 ③白色粒、石英、輝石 ④縫合部小破片 | 粘土練積み上げ成形。 外面：胴部ナダードー沈線文。 内面：ナダードー。 | 前期末 |
| 4 | 中世花道 瓦土器 瓶 | 口径 底径 器高 | — — — | ①焼成 ②橙色／褐灰色 ③褐色粒、白色粒、体部破片 | 粘土練積み上げクロロク整形。 外面：体部ナダードー。 内面：回転ナダードー下半標付。 | 中世後期(16c前半頃) |
| 番号 | 器種 | 法量(cm・g) | 石材／残存度／成・整形技法の特徴 | | | |
| 5 | 石製品 軽鍊車 | 上面径 下面径 高さ 重量 | 4.2 2.5 1.2 28.67 | 片岩系滑石／完形／上面と下面研磨。侧面ケヅリ。下面に直径1.5mm・深さ2mm程度の円形刺突を等間隔に5ヵ所穿つ。 | | |

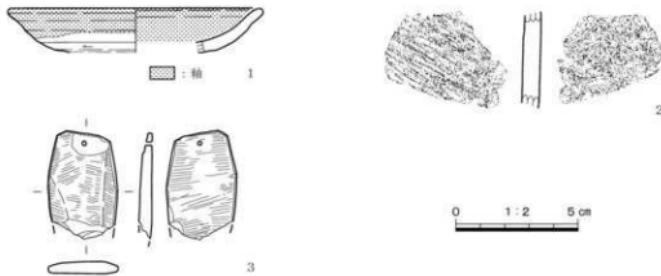
第3表 SD-01出土遺物観察表

SD-02 (第12・13図、第4表、PL. 4・8)

位置：調査区中央部にて一部が検出されている。重複：SK-01に一部切られている。形態：南北方向に走行し、底面は東側が低い。断面形はW字形を呈する。計測値：主軸方位N-4°W、検出長5.86m、検出幅1.42~2.10m、確認面からの深さ0.36~0.46m。埋没状態：主として褐色土が堆積している。遺物：須恵器甕・国産陶器縁小皿・近世磁器染付徳利・碗・近世陶器鉢・剣形石製模造品が出土している。時期：埋没状態と出土遺物より、中世と推定される。



第12図 SD-02



第13図 SD-02出土遺物

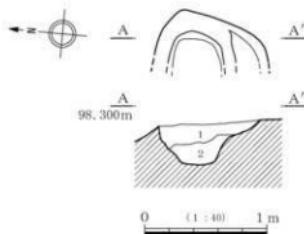
| 番号 | 器種 | 法量(cm) | ①地成②色調(内/外)③土色④残存 | 成・整形技法の特徴 | 備考 | |
|----|------------------|------------------------|-------------------------------|---|---|-----------------------|
| 1 | 圓錐陶器 蓋物小豆 | 口径 底径 器高 | [10.2] — [1.8] | ①運元塗 ②灰色/灰白色 ③白色 ④口縁部1/8 | ロクロ成形。 外面: 口縁部回転ナダ→体部回転ヒラケズリ→施釉。 内面: 口縁部→体部回転ナダ→施釉。 | 瀬戸張窯。古瀬戸後期 様式。 |
| 2 | 酒器 甌 | 口径 底径 器高 | — — — | ①運元塗 ②灰白色/褐色 ③赤 褐色粒、白色粒 ④胴部破片 | 粘土盛積み上げ→叩き成形。 外面: 叩き(平行叩き目)。 内面: ナダ(一部當て道具痕を残す)。 | |
| 番号 | 器種 | 法量(cm・g) | 石材/残存度/成・整形技法の特徴 | | 備考 | |
| 3 | 側形石 製模造 品 | 長さ 最大幅 最大厚 重量 | [4.4] 2.9 0.50 10.04 | 片岩系滑石/2/3/6岩を板状に削離後側縁を整形。表面裏面・側面とも研磨による調性。表面面は緑 がなく平坦。 | | |
| 番号 | 器種 | 法量(cm) | ①地成②色調(内/外)③土色④残存 | 成・整形技法の特徴 | 備考 | |
| 4 | 近世漆器 染付漆 盒 | 口径 底径 器高 | — — — | ①運元塗 ②灰白色/灰白色 ③ 白色粒 ④胴部破片 | ロクロ成形。 外面: 脇部回転ナダ→施文(染付)→施釉。 内面: 脇部回転ナダ。 | 肥前窯(18c)。内面の一部に硝が附かる。 |
| 5 | 近世漆器 染付漆 碗 | 口径 底径 器高 | — — — | ①運元塗 ②灰白色/灰白色 ③ 白色粒 ④口縁部破片 | ロクロ成形。 外面: 口縁部回転ナダ→施文(染付)→施釉。 内面: 口縁部回転ナダ→施釉。 | 肥前窯(18c) |
| 6 | 近世陶器 鉢 | 口径 底径 器高 | — — — | ①運元塗 ②黄褐色/黄褐色 ③ 白色粒 ④口縁部破片 | ロクロ成形。 外面: 口縁部回転ナダ→施釉。 内面: 口縁部回転ナダ→施釉。 | 瀬戸美濃窯(18c) |

第4表 SD-02出土遺物観察表

第4節 土坑・ピット

SK-01 (第14図、PL. 6)

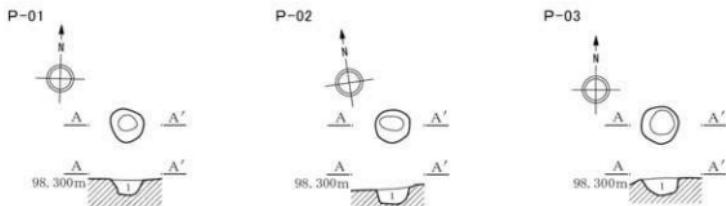
位置: 調査区南部。重複: SD-02と重複し、これより古い。平面形態: 楕円形と推測される。断面形状: おおむね逆台形を呈するが、南部においてテラス状の段をなす。規模: 長軸方向の検出長は0.93mを測る。残存深度: 0.32m。遺構埋没状態: 灰黄褐色ないしにぶい黄褐色の土による自然埋没とみられる。遺物出土状態: 遺物は出土しなかった。遺物: なし。時期: 不明。



SK-01 土層説明

- 1 灰黄褐色土 As-B の粒子（径 1～4 mm）と酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を少量、白色の軽石粒（径 5～10 mm）を微量含む。しまり、粘性とも普通。
- 2 にぶい灰褐色土 As-B の粒子（径 1～4 mm）と酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を少量含む。しまり、粘性ともやや強。

第 14 図 SK-01



P-01 土層説明

- 1 灰黄褐色土
 As-B の粒子（径 1～4 mm）を中量、白色の軽石粒（径 5～10 mm）と酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

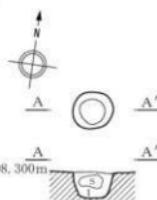
P-02 土層説明

- 1 灰黄褐色土
 As-B の粒子（径 1～4 mm）を中量、白色の軽石粒（径 5～10 mm）と酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

P-03 土層説明

- 1 灰黄褐色土
 As-B の粒子（径 1～4 mm）を中量、白色の軽石粒（径 5～10 mm）と酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

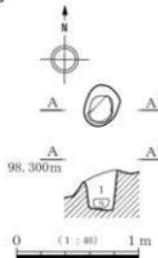
P-04



P-04 土層説明

- 1 灰黄褐色土
 As-B の粒子（径 1～4 mm）を中量、白色の軽石粒（径 5～10 mm）と酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

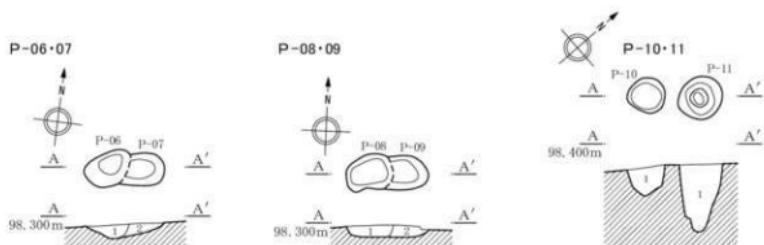
P-05



P-05 土層説明

- 1 灰黄褐色土
 As-B の粒子（径 1～4 mm）を中量、白色の軽石粒（径 5～10 mm）と酸化鉄が凝聚した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

第 15 図 ピット (1)



P-06・07 土層説明

1 灰黄褐色土

As-Bの粒子（径1～4mm）を中量、白色の軽石粒（径5～10mm）と酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

2 灰黄褐色土

As-Bの粒子（径1～4mm）と酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を中量、白色の軽石粒（径5～10mm）を少量含む。しまり、粘性ともやや強。

P-08・09 土層説明

1 灰黄褐色土

As-Bの粒子（径1～4mm）を中量、白色の軽石粒（径5～10mm）と酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

2 灰黄褐色土

As-Bの粒子（径1～4mm）と酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を中量、白色の軽石粒（径5～10mm）を少量含む。しまり、粘性ともやや強。

P-10 土層説明

1 灰黄褐色土

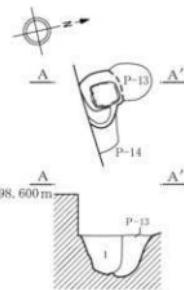
鉄分沈着に由来する褐色の粒子（径1～4mm）を多量、As-Bの粒子（径1～4mm）を中量、白色の軽石粒（径5～10mm）を少量含む。しまりやや強、粘性普通。

P-11 土層説明

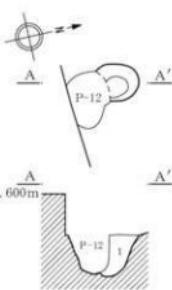
1 灰黄褐色土

As-Bの粒子（径1～4mm）を中量、白色の軽石粒（径5～10mm）と酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

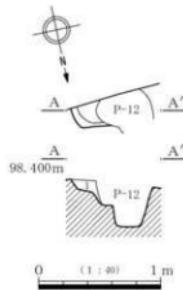
P-12



P-13



P-14



P-12 土層説明

1 灰黄褐色土

As-Bの粒子（径1～4mm）と酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を中量、白色の軽石粒（径5～10mm）を少量含む。しまり、粘性ともやや強。

P-13 土層説明

1 灰黄褐色土

As-Bの粒子（径1～4mm）を中量、白色の軽石粒（径5～10mm）と酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

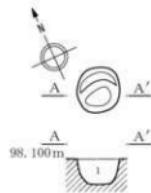
P-14 土層説明

1 灰黄褐色土

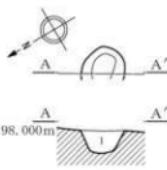
As-Bの粒子（径1～4mm）を中量、白色の軽石粒（径5～10mm）と酸化鉄が凝集した橙色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

第16図 ピット(2)

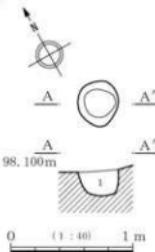
P-15



P-16



P-17



P-15 土層説明

1 灰黄褐色土

A_v-B_vの粒子（径1～4mm）を中心、白色の軽石粒（径5～10mm）と酸化鉄が凝聚した褐色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

P-16 土層説明

1 灰黄褐色土

A_v-B_vの粒子（径1～4mm）を中心、白色の軽石粒（径5～10mm）と酸化鉄が凝聚した褐色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

P-17 土層説明

1 灰黄褐色土

A_v-B_vの粒子（径1～4mm）を中心、白色の軽石粒（径5～10mm）と酸化鉄が凝聚した褐色の植物痕を少量含む。しまり普通、粘性やや強。

第17図 ピット(3)

| 遺構名 | 平面形 | 断面形 | 平面規模(cm) | | 深さ (cm) | 備考 |
|-------|---------|------|----------|--------|------------|-----------|
| | | | 長径 | 短径 | | |
| SK-01 | (円形) | U字状 | — | [66.0] | 38.0 | — |
| P-01 | 円形 | U字状 | 33.0 | 30.0 | 44.0 | — |
| P-02 | 円形 | レンズ状 | 28.0 | 26.0 | 14.0 | — |
| P-03 | 円形 | レンズ状 | 30.0 | 30.0 | 14.0 | — |
| P-04 | 円形 | レンズ状 | 28.0 | 26.0 | 12.0 | — |
| P-05 | 円形 | U字状 | 34.0 | 26.0 | 60.0 | — |
| P-06 | 橢円形 | レンズ状 | 40.0 | 28.0 | 12.0 | P-07を切る |
| P-07 | 橢円形 | レンズ状 | — | 26.0 | 12.0 | P-06に切られる |
| P-08 | 長椭円形 | レンズ状 | (38.0) | 30.0 | 10.0 | P-09を切る |
| P-09 | 橢円形 | レンズ状 | — | 28.0 | 10.0 | P-08に切られる |
| P-10 | 円形 | U字状 | 31.0 | 30.0 | 22.0 | — |
| P-11 | 円形 | 漏斗状 | 36.0 | 36.0 | 56.0 | — |
| P-12 | 円形または方形 | U字状 | (30.0) | 30.0 | 36.0 | — |
| P-13 | 円形 | V字状 | — | 30.0 | 29.5 | — |
| P-14 | 不整形 | 不整形 | [36.0] | [24.0] | 20.0 | — |
| P-15 | 円形 | U字状 | 38.0 | 36.0 | 20.0 | — |
| P-16 | 円形 | U字状 | — | [34.0] | 18.0 | — |
| P-17 | 円形 | U字状 | 38.0 | 34.0 | 20.0 | — |

第5表 土坑・ピット一覧表

第5節 遺構外出土遺物 (第18図、第6表、PL. 8)

遺構本来の時期に關係のない覆土包含遺物を広義の遺構外出土遺物と考えるのであれば、当該遺物の時期は弥生時代前期末から18世紀代と広範囲に及ぶ。それらの遺物の大半は、すでに前節にて図や觀察表を掲載した。本節では、遺構の検出範囲から外れた箇所で採取された狭義の遺構外出土遺物を掲載する。

なお、磁器類については、器形の復元が困難であったため、実測図は示さず、卷末の写真図版上で破片の写真を掲載するにとどめた例もある旨、ご了承いただきたい。



第18図 遺構外出土遺物（搅乱出土）

調査区一括

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | ①他成色調(内/外)②新土層存 | 成・整形技法の特徴 | 備考 |
|----|------------------------|---------------|-------------------------------------|---|---------------------------------|
| 1 | 近世罐 染付碗 底部 器高 | 口径 底径 高 | — ①運元端 ②灰白色／灰白色 ③ 白色粒 ④高台部1/2 | ロクロ成形。 外側：底部～底部削輪ナダ→施文（染付）→施釉。 内側：底部～底部削輪ナダ→施釉。 | 肥前窯(18c) 写真のみの掲載 PL. 8 参照 |

搅乱出土

| 番号 | 器種 | 法量(cm) | ①他成色調(内/外)②新土層存 | 成・整形技法の特徴 | 備考 |
|----|------------------------|----------------|---|--|---------------------------------|
| 1 | 近世在用 土器 埴輪 | 口径 底径 器高 | — ①運元不良 ②陶灰色／灰黃褐色 ③褐色粒、白色粒、石英、舞石 ④破片 | 粘土積み上げ成形。 外側：口縁部～体部ヨコロナダ、底部明き。 内側：口縁部～底部ヨコロナダ。 | |
| 2 | 近世南昔 埴輪 | 口径 底径 器高 | — ①運元端 ②時赤褐色／暗赤褐色 ③白色粒、長石 ④体部小破片 | 粘土積み上げロクロ成形。 外側：体部削輪ナダ。 内側：体部削輪ナダ…擦り目。 | 丹波窯(17c) |
| 3 | 近世罐 染付碗 底部 器高 | 口径 底径 高 | — ①運元端 ②灰白色／灰白色 ③ 白色粒 ④体部破片 | ロクロ成形。 外側：体部～高台部削輪ナダ→施文（染付）→施釉。 内側：体部～底部削輪ナダ→施釉。 | 肥前窯(18c) 写真のみの掲載 PL. 8 参照 |

第6表 遺構外出土遺物観察表

VI まとめ

今回の調査では、調査区東部にて堅穴住居跡3軒が確認された。出土遺物が示す時期は古墳時代後期前半、6世紀初頭～前半と考えられる。住居跡は基本層序のⅢ層を掘り込んでつくられ、覆土はⅢ層に由来する粘質土を多く含んでおり、6世紀初頭のHr-FA泥混堆積物層の被覆後ほどなくして住居がつくられたと考えるべきところである。検出範囲が一番広かつたSI-03はSI-01・02に、SI-02は01にそれぞれ切られており、構築順は、SI-03→02→01と推測される。

また、おおむね南北方向に走行する溝状遺構2条が検出された。いずれも覆土は從来存在していたはずのAs-B混土層に由来する土を多く含んでいる。出土遺物は、古い方で滑石製の紡錘車や剣形模造品、新しくは軟質陶器の破片や陶磁器類など時期的に大きな幅があり、いわゆるB混の覆土という点を勘案して、遺構の埋完了時期は近世（18世紀以前）、性質は水路の可能性をひとまず考えておきたい。

その他の遺構としては、土坑1基、ピット17基が検出された。いずれも東部に偏って分布し、覆土はAs-B混土層に由来する土を多く含んでいる。配列に明確な規則性は認められず、中近世につくられた遺構

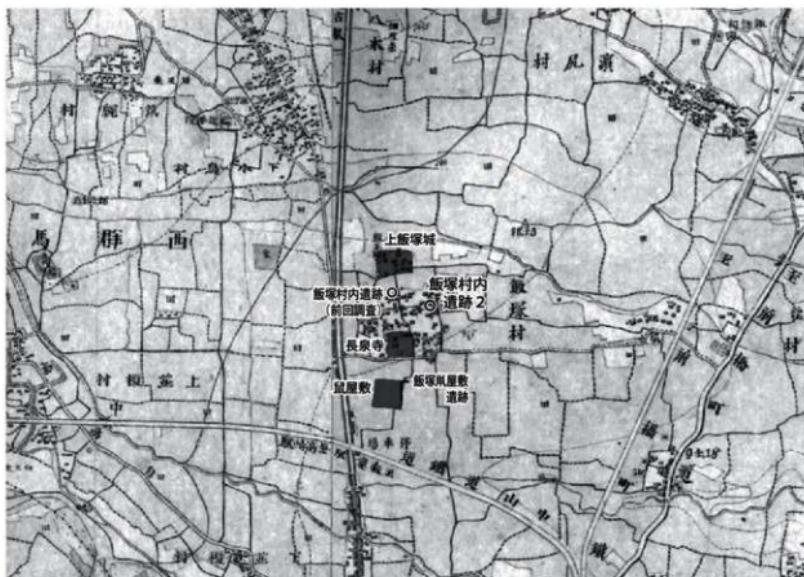
と考えられる。

以上の成果は、6世紀初めの自然災害を乗り越えて集落を造営した経緯や、15～16世紀に設営された城館周辺の地割の規制を多分に受けた近世以降の土地利用の一端を示唆するものと評価される。なお、飯塚村内遺跡1次調査では6世紀初頭およびそれ以前の歴史遺構が検出されており、今回検出された集落の住人と関連を考慮する必要もあるう。

主要引用・参考文献

- 大西雅広他 1985『上並坂南遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 大江正行 2000「第II編 高崎市域の生活と文化 III 人々のくらし」『新編 高崎市史 通史編2 中世』高崎市市史編さん委員会
- 間口 修・五十嵐 信 2003「第V章 古代の高崎 四 交通路の整備と蝦夷征討 1 東山道と人々の生活」『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』高崎市市史編さん委員会
- 高林真人 2016『飯塚・貝沢塚添遺跡3』高崎市教育委員会
- 田村 孝 2003「第IV章 古墳時代の高崎 三 大規模開発と水田 2 古墳時代中・後期の水田・畠」『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』高崎市市史編さん委員会
- 常深 尚 2019『飯塚爪屋敷遺跡』高崎市教育委員会
- 中村正芳 2003「第I章 歴史の舞台としての高崎の自然 一 高崎の自然の特色」『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』高崎市市史編さん委員会
- 矢島 浩 2016『飯塚貝沢塚添遺跡2』高崎市教育委員会
- 山崎 一 1979『群馬県古城塁址の研究 補遺編 上巻』群馬県文化事業振興会
- 山本杏子 2018『飯塚村内遺跡』高崎市教育委員会

写 真 図 版



遺跡の位置と周辺の地形 (1885年、上が北)
明治前期測量 2万分1 フランス式彩色地図「902群馬県上野国
西群馬郡高崎町」「904群馬県上野郡木部郡中豐岡村」を合成



調査区周辺の新旧航空写真 (左: 1948年4月 米軍撮影
右: 2010年5月 国土地理院撮影 ともにS≈1/10,000)



調査区全景（調査前半）



調査区全景（調査後半）



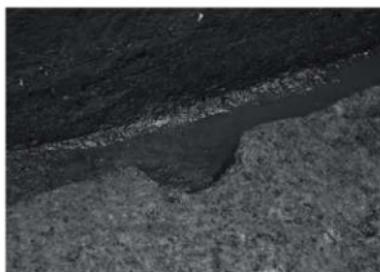
SI-01-02 (北西から)



SI-01 遺物出土状況 (北西から)



SI-01-02 土層断面 (北西から)



SI-01 P01 (北西から)



SI-03 (北西から)



SI-03 土層断面 (北西から)



SI-03 遺物出土状況 (1) (北西から)



SI-03 遺物出土状況 (2) (北西から)



SD-01 (北から)



SD-01 土層断面 (北から)



SD-01 遺物出土状況 (1) (南東から)



SD-01 遺物出土状況 (2) (南東から)



SD-02 (北から)



SD-02 土層断面 (南から)



SD-02 遺物出土状況 (1) (南東から)



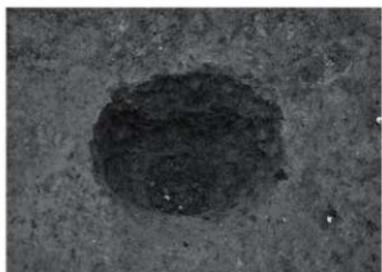
SD-02 遺物出土状況 (2) (南東から)



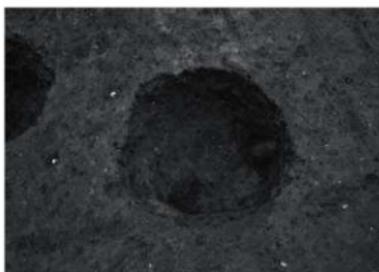
P-01 (南から)



P-01 土層断面 (南から)



P-02 (南から)



P-03 (南から)



P-04 (南から)



P-05 (南から)



P-06・07 (南から)



P-08・09 (南から)



P -10・11 (南から)



P -12～14 (北東から)



P -15～17 (南東から)



SK-01 (西から)



基本層序記録用テストピット 土層断面 (南から)



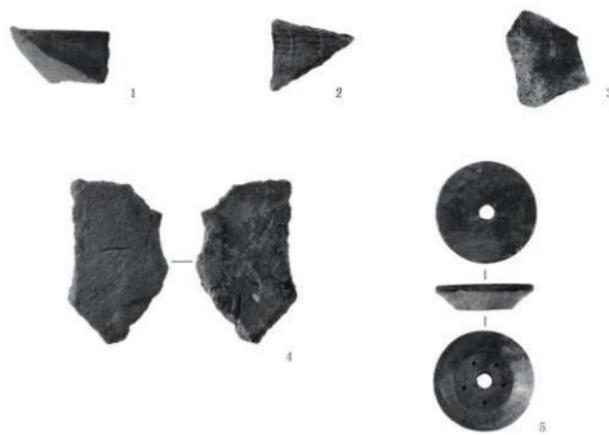
基礎杭打設状況 (南西から)

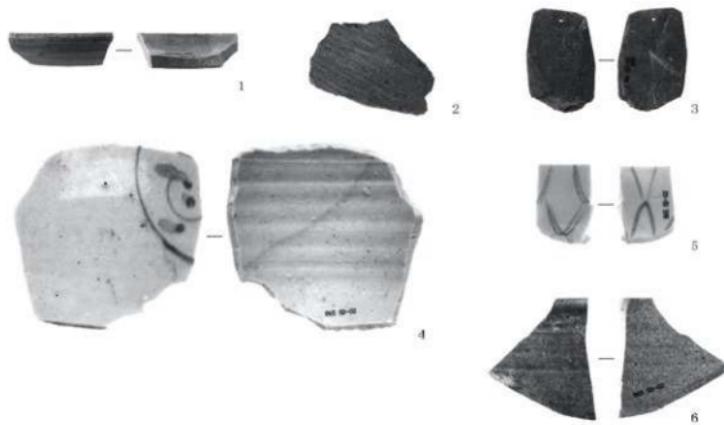


表土掘削状況 (北西から)



調査状況 (西から)





SD-02 出土遺物



調査区一括遺物

撓乱出土遺物

報告書抄録

| | |
|--------|--|
| フリガナ | イイヅカムラウチセキニ |
| 書名 | 飯塚村内遺跡2 |
| 副書名 | 集合住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 |
| 卷次 | |
| シリーズ名 | 高崎市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第498集 |
| 編著者名 | 和久裕昭 渡辺博子 清水豊 |
| 編集機関 | 有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 TEL 027-265-1804 |
| 発行機関 | 有限会社 毛野考古学研究所 |
| 発行年月日 | 令和5年7月31日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 位置 | | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---------------|---------------------------|--------|-----|-------------|--------------|-------------------------------|---------------------|--------------|
| | | 市町村 | 遺跡 | 北緯 | 東経 | | | |
| 飯塚村内遺跡 | 群馬県高崎市 飯塚町字村内 572-1 | 102020 | 865 | 36° 20' 40" | 139° 00' 14" | 2023.6.20-1 ~ 2023.6.21 | 42.0 m ² | 集合住宅 建設工事 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|--------|----|------------------|-----------------------|-----------------------|---|
| 飯塚村内遺跡 | 集落 | 古墳時代 中世 近世 | 住居跡 溝 土坑 ピット | 3軒 2条 1基 17基 | 弥生土器 土師器 石製品 軟質陶器 陶磁器 Hr-FA 泥流堆積物層を掘り込む形で6世紀前半代の住居跡が構築されており、当該地が台地化した直後の新闘集落の一例と考えられる。 近世に埋没が完了した溝2条の底面付近より、古墳時代の滑石製筋鍤車と模造品が出士。 |

高崎市文化財調査報告書第498集

飯塚村内遺跡2

—集合住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

令和5年7月20日印刷

令和5年7月31日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所
発行／有限会社毛野考古学研究所
印刷／朝日印刷工業株式会社